



田舎源氏 参拾二



~ 13
2742
32



東邦系本園宗五扶輯

俳諧今人附合集 全四冊

新刊板

凡天保元年のころに九條とよの内
海内宗五の字ありてその名を命名あり
人との附合五百巻をわけてあはれ
の海り一瞬のまゝあること

系本園宗五扶輯

俳諧今人叢白集 全二冊

新刊板

天保改元のころに海内宗五の方々
より其の字ありてその名を命名あり
俳諧を四巻の子影部を以て其時
流の一時のまゝありて初公他例を
力せむる便利の事あり

俳諧芳艸集 全二冊

田舎源氏文集おれが上仕立
りんもんふりやほき新古今の早のり
ふりん入ふりやほき新古今の早のり
床子極方かるいほき新古今の早のり
らんひきんふりやほき新古今の早のり

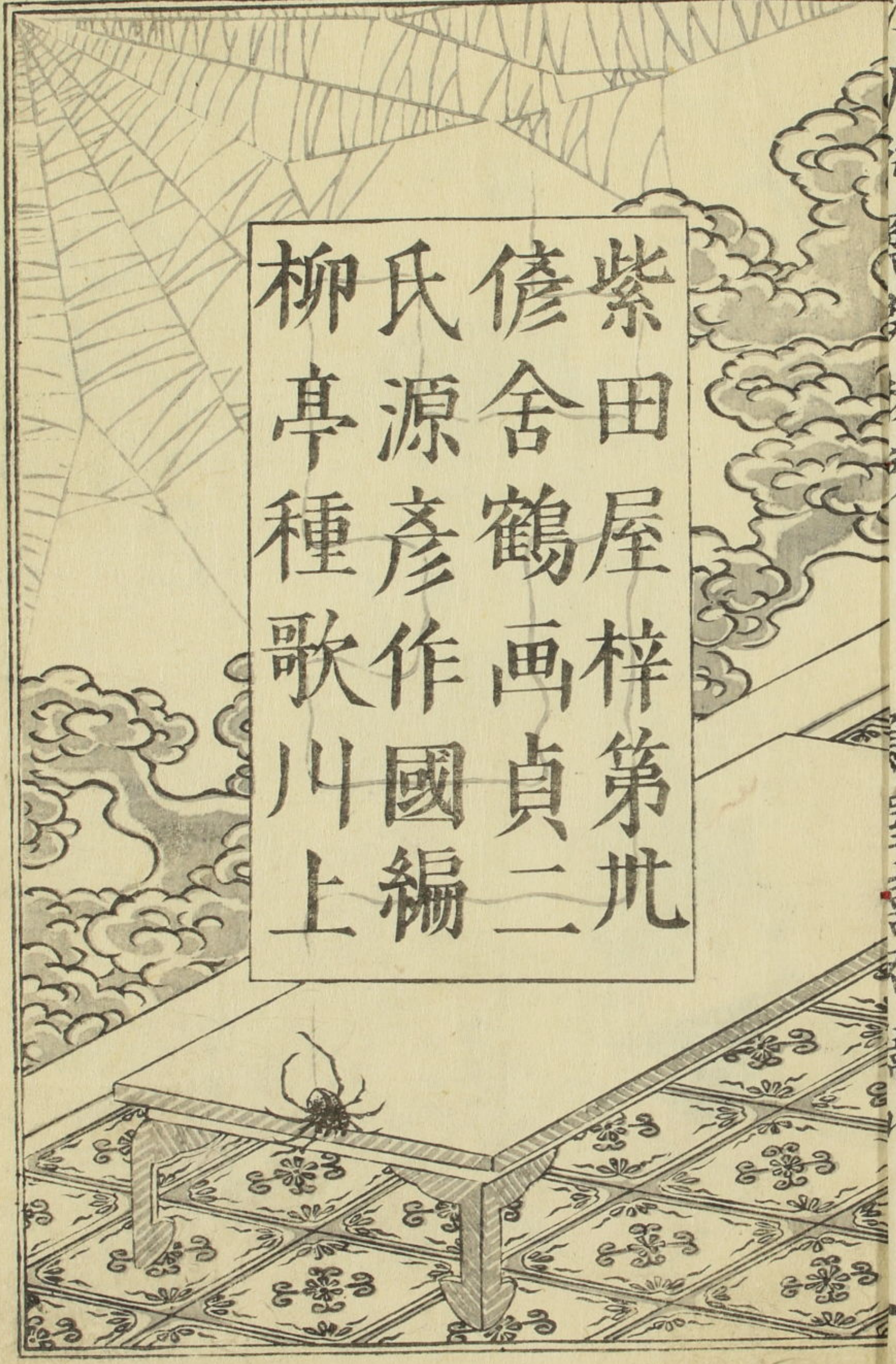
俳諧今四歌仙 全一冊

師遊盛入
小繪ぞりし
昔火梅もどろ全三冊
昔きちちんぞろ全三冊
種彦少書
貞秀画図
葉書ののろは全三冊
昔浦島翁全三冊

江戸御膳問及所

鳥屋喜右衛門

紫田屋梓第卅
倭舎鶴画貞二
氏源彦作國編
柳亭種歌川上



三十二編下



因獲虎作
田真高

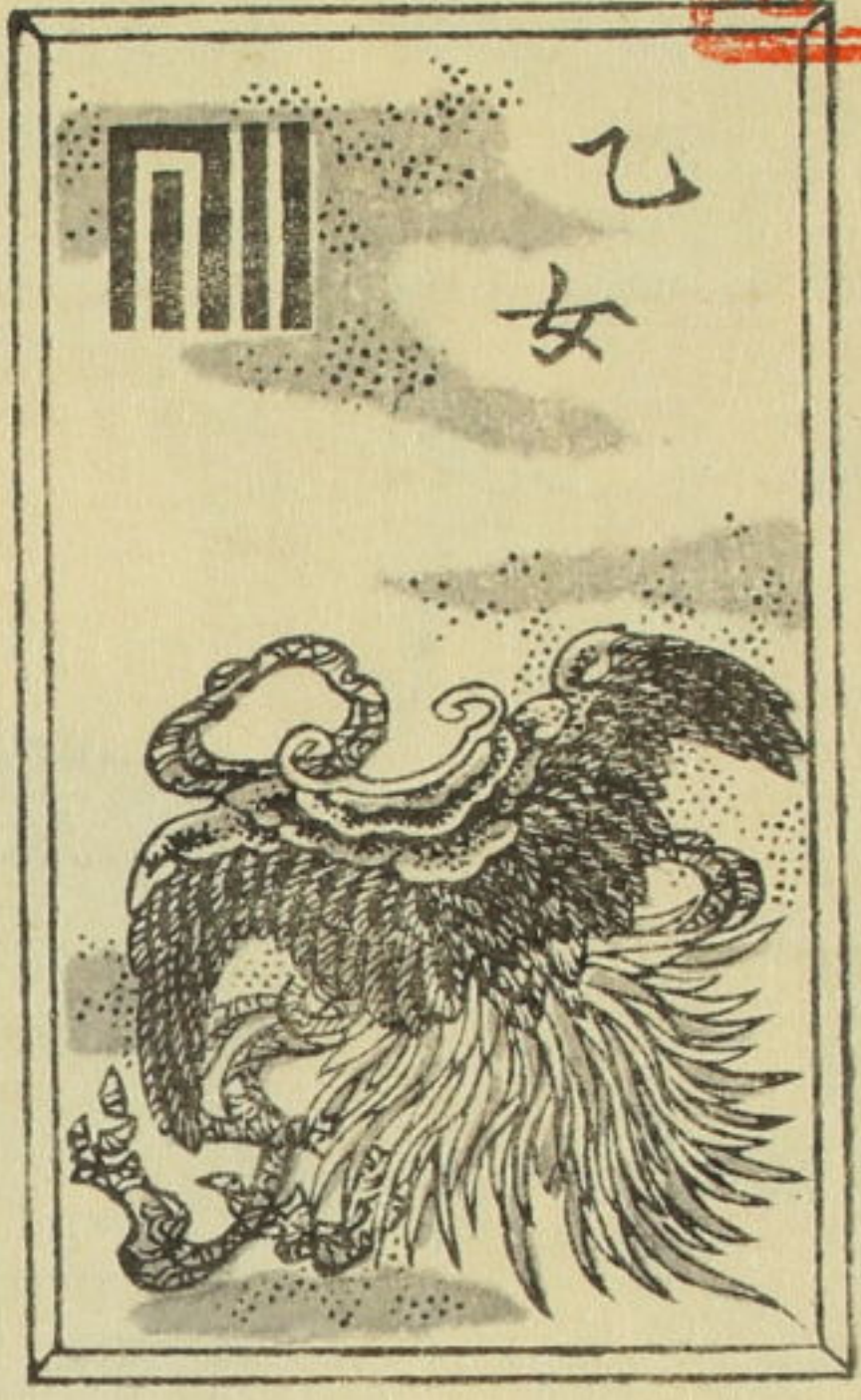
田真高



燒七
田舎
見

門 へ13
3742
32

柳亭種彦作



乙女

歌川國貞画

をきめ子も
神さひめん
天津袖
あつこせの友
ふそひるをれん

田舎源氏

第三十二編下冊

通油町

仙鶴堂板

倭紫田舎源氏第三十二編

羽二重の緒の最上あれども両衣もあきらめんあつて兜羅綿ふごまか上
縮緬の前垂も身を扱ふあきらめん本綿程用へるまじ野良
柳子因縁の末癩うらうら小度殿らむ赤裳衣ひきと縁ををられぬ
万葉時代も長襦袢へ緋るじ事必せりこまへ色も地阿ひも
ありあれども不及事ありとん知りるまじ足利緒で五の衣を仕立
かやうに不あつてもさうくして十二重の十二年續きて乙女の巻小
至り五郎の舞の衣裳おこまり大原おの田舎換振極々
初音の巻の男踏鞢と後何のちせ玉葛の筑は綿をかりこんで
見られども原来雅言の借物あれは横堅も採ぬを知らぬ
書房の是をうへまらぬおせんとい急ぐもさう

天保十年庚子孟春

柳亭種彦誌



大原野の
祭
仁壽元年
辛未二月日
乙卯の日
とて

このころあつた最ふに神事を
藤氏の右官のうらむ行啓ありとぞ



右の女は...
左の女は...



右の男は...
左の女は...

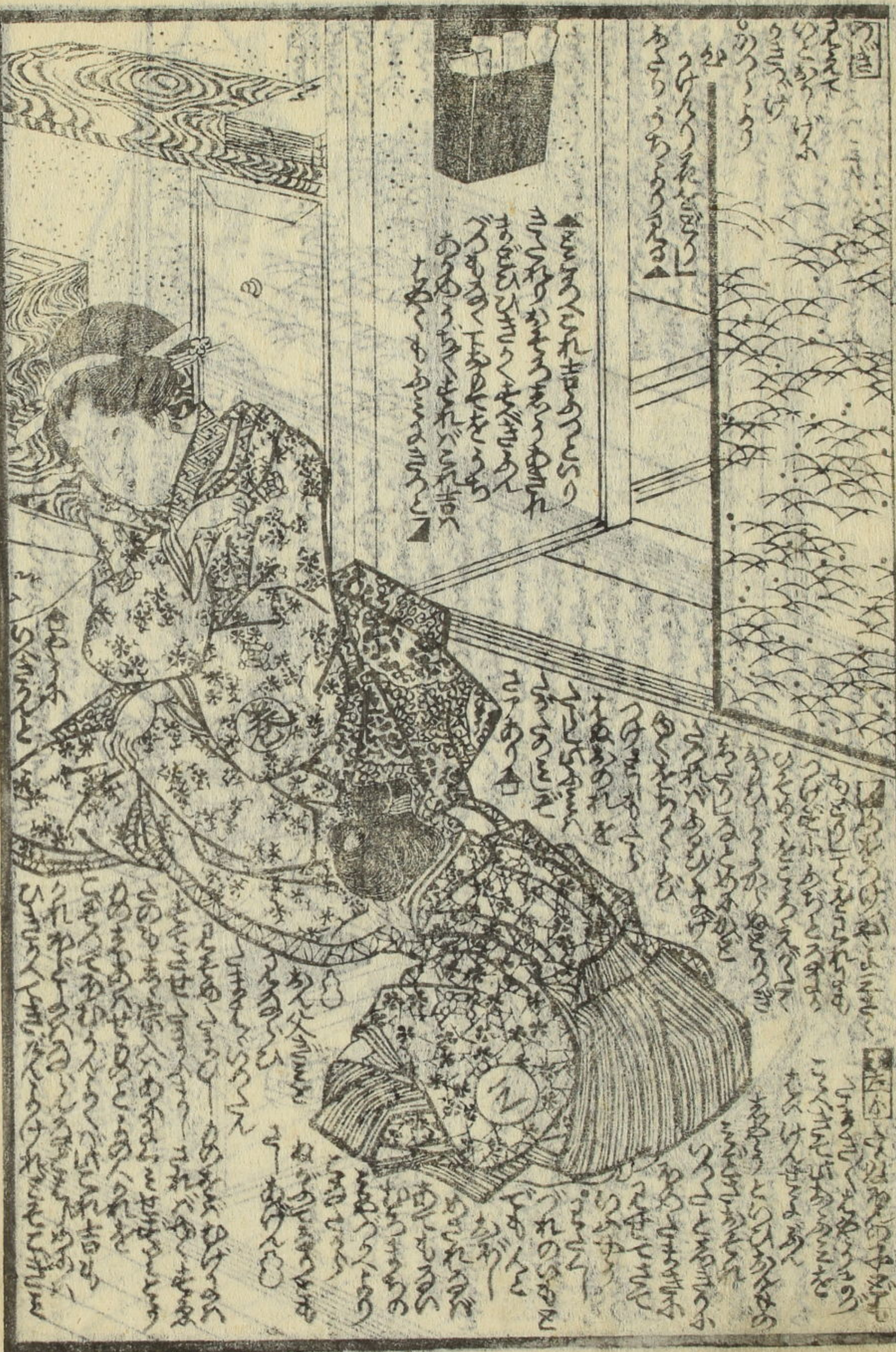
右の女は...
左の女は...

右の男は...
左の女は...
右の女は...
左の女は...



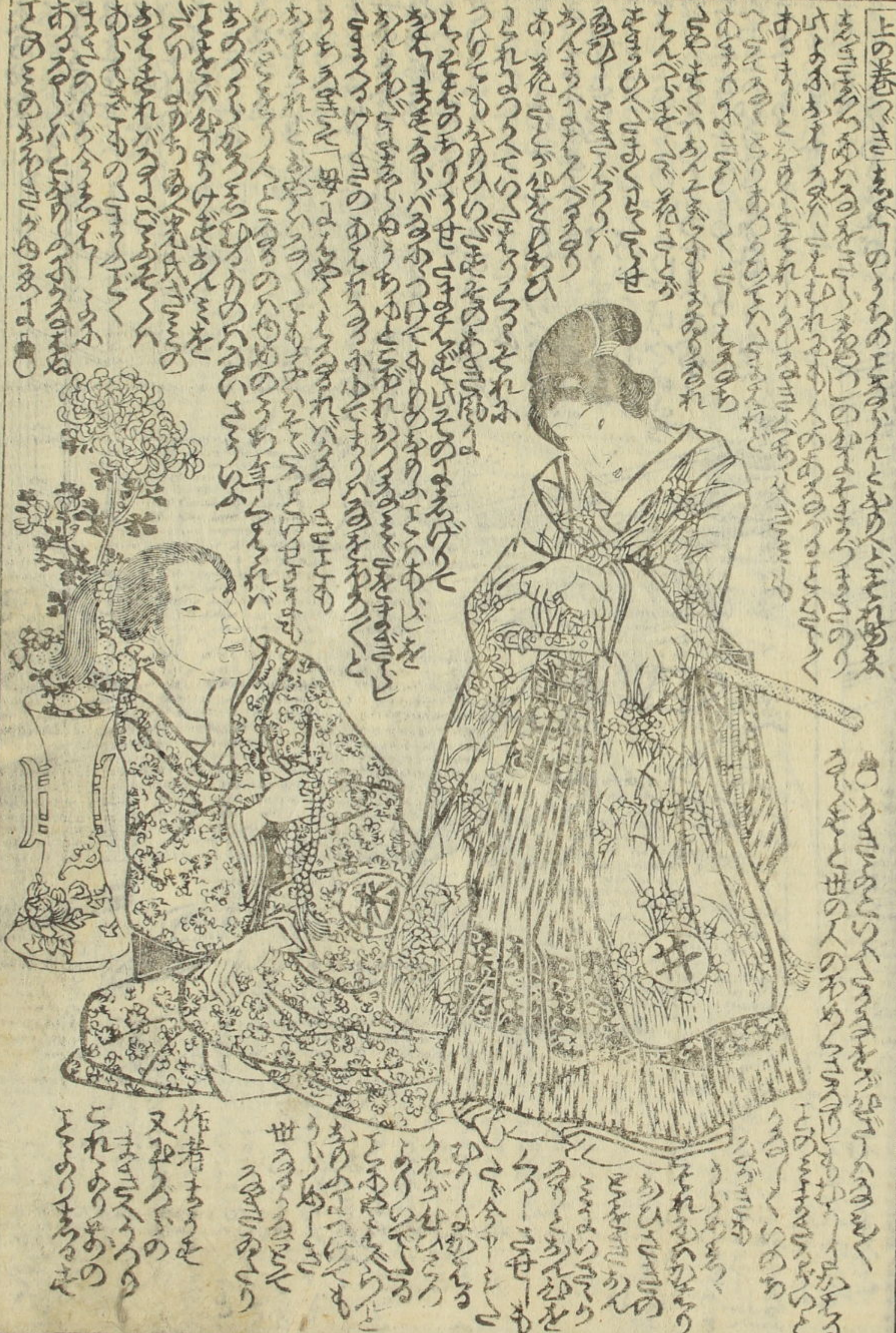
右の女は...
左の女は...

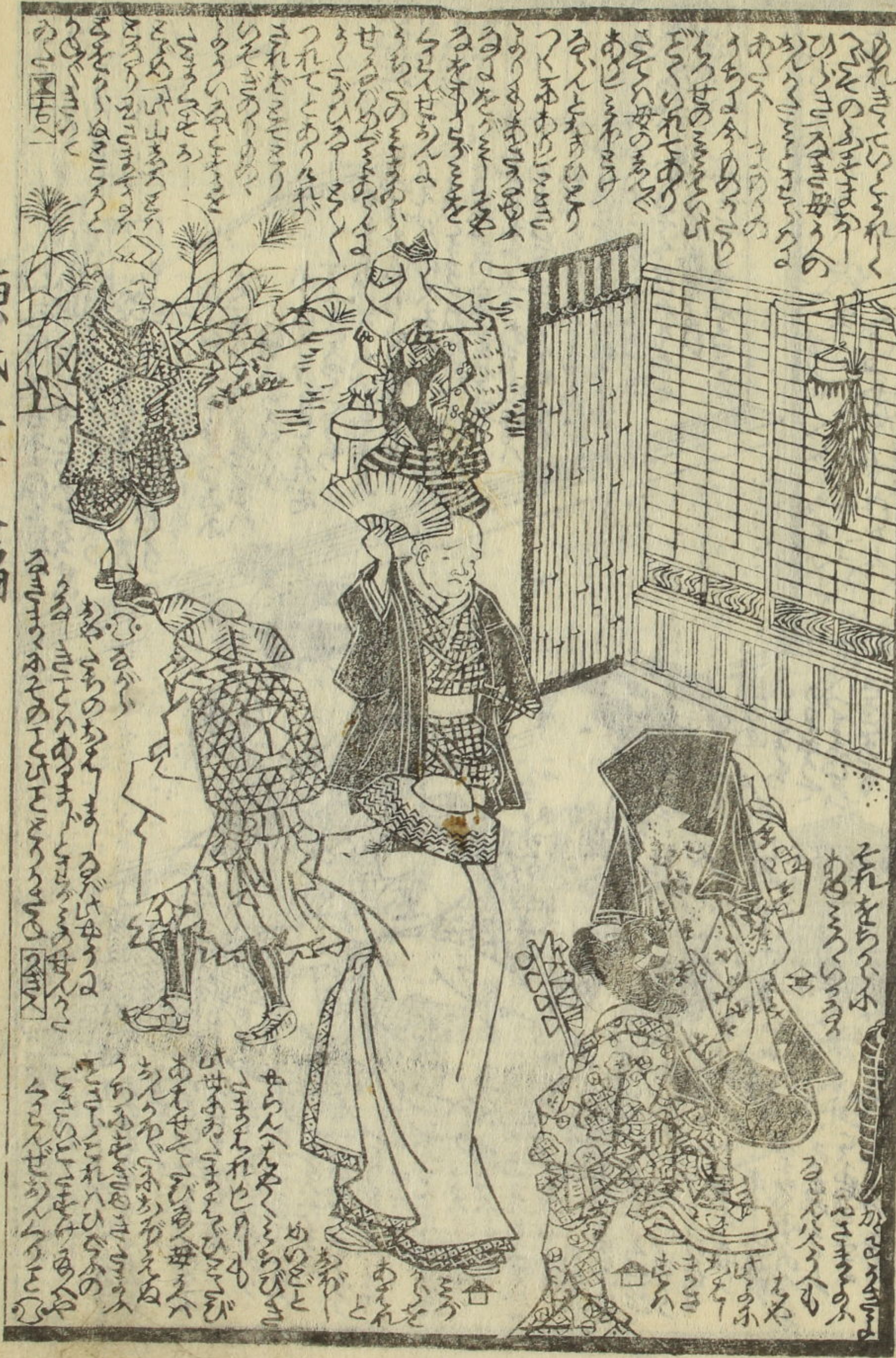
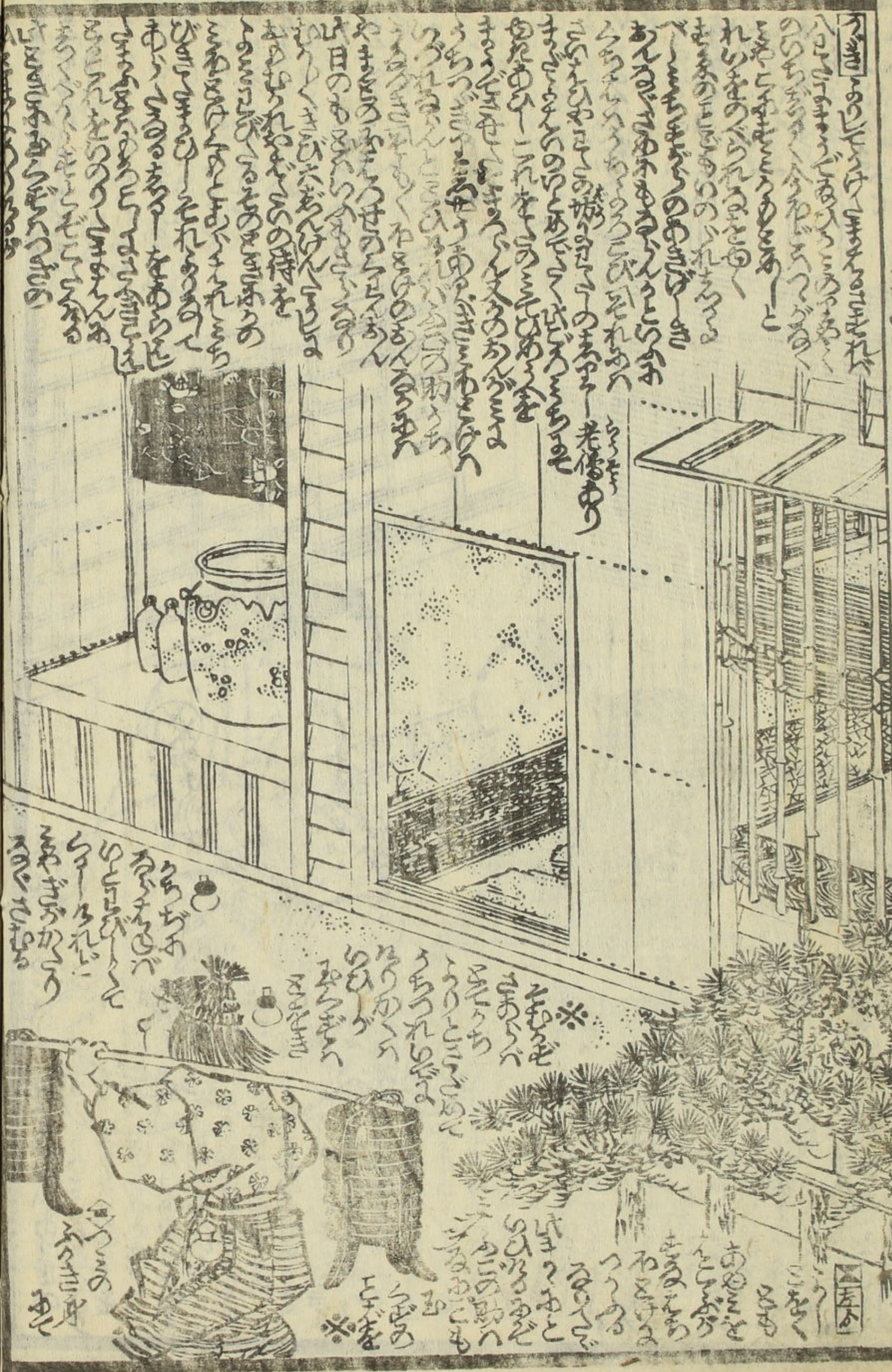
右の女は...
左の女は...
右の女は...
左の女は...





國貞画種彦作



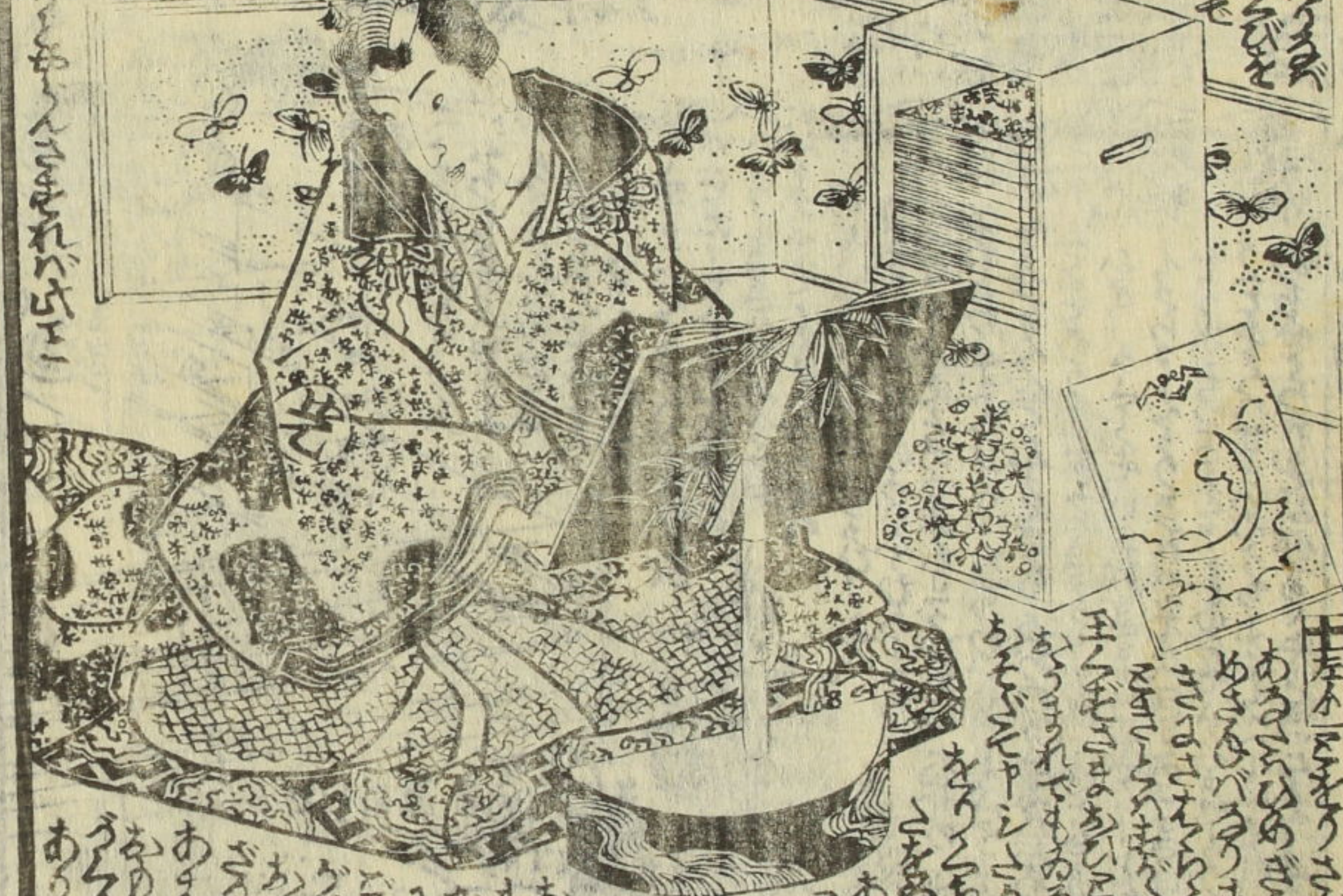


源氏三十二編





Handwritten text in a cursive style, likely a preface or introductory text, located at the top of the right page.



Handwritten text in a cursive style, likely a continuation of the text from the top of the page, located at the bottom of the right page.

Handwritten text in a cursive style, likely a preface or introductory text, located at the top of the left page.



Handwritten text in a cursive style, likely a continuation of the text from the top of the page, located at the bottom of the left page.

Vertical text on the left margin of the left page.

Vertical text on the right margin of the right page.

